高山

高山（たかやま）の原生林を守る会
会報　第 127 号
2023年　12月

第 191 回観察会　水林自然林初冬の川辺林観察会

11 月 26 日（日）に第 191 回高山の原生林を守る会観察会を開催しました。参加者は 22 名でした。前回に引き続き 5 名の方がオープン参加でした。

前日、県内各地に雪をもたらした寒波の影響で、相当の低温を覚悟していましたが、朝から小春日和、しかも無風で最高の観察会日和となりました、下見で準備していた各所の観察ポイントも落葉することなく残っており、半日でしたが、中身の濃い観察会となりました。

四季の里入口脇の集合場所が水林自然林に隣接しており、自然林には、あづま橋を渡って道路を横断、階段を降りて入ります。今回の観察ポイントは3つのエリアに分かれています。

最初は集合場所から自然林まで、樹皮が割れる前後のヤシャブシやクマノミズキ、サワシバなどを観察しました。次に、自然林に降りてオオモミジなど 5 種類のカエデが織りなす錦の紅葉、最後はセンボンヤリ群落の綿毛で飾られた繊細な果実、ここでは下見で見落としていた、キッコウハグマの果実も観察できました。

霞堤に移動して昼食をとり、上名倉堤から高山と吾妻小富士を眺めて戻りました。青空に高山の緑の稜線がくっきりと浮かんでいました。

コハウチワカエデ

高山

ヤマモミジとコハウチワカエデ

センボンヤリ

第 191 回自然観察会『水林公園自然観察会』水林自然林初冬の川辺林観察会

渡部あけみ

11 月 26 日、水林公園自然観察会に初めて参加しました。偶然 Nature navi でイヴェント情報を見つけて、早速参加させていただきました。ひとりでは心細いので、友人も誘っての参加です。

アカシデとキヅタ

水林自然林は、福島版「明治神宮の森」、明治 39 年荒川の大氾濫に備えて防備保安林として、面積 34 ヘクタールの広大な敷地内にアカマツ・スギ・ケヤキ・コナラ等が植樹された 2 次林だそうです。

ヤシャブシの観察から始まりました。植皮に割れ目ができ剥離する。落ち葉や植皮の剥離で肥材木になっていくと。ヤシャブシは吾妻連峰が、北限だそうです。クマノミズキ、落葉高木、葉は対生、ミズキは互生だそうです。説明の意味がよくわからず、帰ってから、グーグル先生で調べてみました。

ヤマモミジ

カエデとモミジ。たくさんの種類があって、なかなか覚えられません。家に帰ってきて、家の庭にあるのは、コハウチワカエデだとわかったことは、大きな収穫でした。サワシバやセンブリの観察も心うばわれました。最後に霞堤を通って、東屋でお昼。霞堤は、堤防が折れ重なり、霞がなびくようにつけられた名前であることも初めて知りました。これは、圧巻です。

夏の名残

今回、自然観察会に参加して、とても歴史のある会だと言うことを、知ることができました。毎回いろいろな方が、準備を重ねて、続けてこられた素晴らしい会だと初めて知ることができました。

最後になりますが、私が自然観察員を目指したきっかけについて。山を歩いていて、人が入らなければ登山道は、藪化する。人が入りすぎれば、登山道は、えぐられる。このバランス、コロナの中考えさせられました。

人の手が入らないのは、自然保護なんだろうか？何気なく利用してきた登山道、自分たちの世代でできることから始めようと、思っていました。そんな中、自然観察講習会が開かれていると情報いただき、参加させていただきました。これからもよろしくお願いします。

思い思いに散策

木立の奥に

昼食を終えて

第 190 回自然観察会・雄子沢紅葉のブナ林観察会に参加して

菊地　裕美

始めは小雨模様

色とりどり

ズキンタケ（ベビーゼリー）

説明に耳を傾ける参加者

大好きな植物の自生地を見てみたいとの思いから山との付き合いを始めました。まだ山の経験は浅いですが、本来の場所で生きているその植物の姿や季節ごとに表情を変える自然の姿に触れるたび、言葉にはできない感動と感謝の念に打たれます。

常々、山を歩いていても花はともかく樹木の名前がわからず、これらの木々の名前がわかったら、どんなにか楽しさが増すだろうなと思っていました。人も名前を知って親しくなれますし、個性も見えてきます。誰か名前を教えてくださる方がいたらなあと思っていたところに、この観察会を知りました。そして、何よりも大好きなブナの紅葉という時期でとても楽しみにしておりました。

高木は葉が頭上高くあるので、なかなか葉の色や形がわかりませんし、樹形や樹皮の様子だけで判断するのは、私にはもっと難しいです。今回の落ち葉からの観察は、とても参考になりました。形も紅葉する色の美しさはそれぞれで、その落とし主は上を見上げれば分かります。秋の木々は一番華やかで個性的、みんな何か語りかけてくれてるようで、もっともっと仲良くなりたいと思いました。

また、ハウチワカエデのように赤くなる木のはずなのに紅葉しない理由や、ヤマブドウは日陰でもなぜ真っ赤になれるの？といった、樹木の様子や植生から、その場所の環境やその年の気象を読み取れることは、とても納得し勉強になりました。

観察会がきっかけで、貴会の歴史や長年の活動や豊富な知識を知りました。私も心動かされましたが、他にもそんな経験や知識を求めている方はたくさんいると思います。この地球は私たち人間だけのものではなく、より良い環境を未来へ繋ぐ責任を感じている人も増えています。

オカリナ

雨に濡れて紅葉が映える

ぜひ、貴会の経験や知識、その志を、待っている人たちに届けて頂きたい、若い世代に伝えて頂きたいと思いました。形は違っても、私もその志を伝えるお手伝いをしていきたいと思います。

今回は、楽しく充実した1日をありがとうございました。

錦秋

コマユミの紅葉

錦秋

ブナの森　そのまんま美術館

宇之津昌則

ホームページ http://shouwamokkou.com

Tel:090-3403-0873

微生物の地衣類がデザイン、彩色したブナの樹肌は美しく1本1本が絵画作品のようです。間伐したブナの樹皮から美麗な模様を選んで作品を製作しました。

今、世界は各地で国どうしの戦争、国の中での分断があります。ブナの森の地衣類の世界では藻類と菌類が仲良く手を取り合って共生して暮らしています。平和を愛する地衣類が表現する、今まで皆があまり関心を寄せてこなかったモザイク模様。色んな作品を作ることで地衣類の魅力、雪国のブナの森の魅力ともども発信していきます。

代表作品が時計、鉛筆、ボールペンです。時計は樹皮と木部をモザイク状に組み合わせ、敢えて文字盤をいれませんでした。鉛筆は固くて削りにくいという課題がありましたが、解決方法が見つかりました。ボールペンはノック式で、芯は交換できます。パネルは時計を作っていたとき、試しにどんどん、繋げて行ってできました。腕試しに今年の新潟県展に出品したところ、入選しました。

材料は新潟県魚沼市大白川の間伐材です。日本二百名山の一つの守門岳の麓です。11 月26日現在、うっすらと頂きに雪を冠っています。ブナの森は 4.5 メートルの雪に覆われますが、樹皮に棲み着いた地衣類は菌類、藻類とが、お互いに助け合ってこの長い冬を乗り越えていきます。

（作品は購入できます。直接作者にお申込み下さい）

パネル

時計

ボールペン

高山の原生林を守る会　2023年定期総会報告

2023年11月26日（日）　午後13:00～16:00
西学習センター会議室

2023年活動報告

月　日	内　容	参加人数
11月20日（日）	第185回布引山陽だまり観察会と総会	16名
12月4日（日）	野手上山登山道放射線量調査	2名
1月11日（水）	第5回登山フィールド部会	2名
2月26日（日）	第186回十万劫山自然林の冬芽観察会	18名
2月28日（火）	第2回磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会	2名
3月1日（水）	第6回登山フィールド部会	2名
4月23日（日）	第187回奥土湯自然林・早春の植物観察会	19名
6月4日(日)	第188回母成峠新緑のブナ林森観察会	16名
6月14日(水)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランテア（環境省と共同一般公募）	2名(+12名)
6月17日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランテア（環境省、NF米沢と共同、一般公募）	3名(+21名)
8月6日(日)	第189回鳥子平・景場平の高原植物観察会	10名
9月12日(火)	西吾妻登山道整備現地調査（環境省と共同）	1名(+11名)
9月23日（土）	近自然工法による西吾妻登山道整備作業（環境省と共同、一般公募）	4名(+20名)
10月1日（土）	霊山空間線量調査	7名(+3名)
10月3日（火）	第7回登山フィールド部会（猪苗代町地域福祉交流センター）	2名
10月14日（土）	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランテア（環境省、NF米沢と共同、一般公募）	2名(+7名)
10月29日（日）	第190回雄子沢紅葉のブナ林観察会	16名
11月26日(日)	第191回水林自然林陽だまり観察会と総会	22名

2023年　高山の原生林を守る会　決算書

収入

科　目	予算額(A)	決算額(B)	摘　要
前期繰越金	205,285	205,285	
年会費	45,000	29,000	支払い32名（会員数46名）
観察会参加費	50,000	44,000	500円×88名
保険金差額繰入金	0		前払い金と実績申告の差額
雑収入	1,000	56,001	ボランティア支援金、利息
合　計	301,285	334,286	

支出　（単位　円）

科　目	予算額(A)	決算額(B)	摘　要
会議費	5,000	1,400	
郵送費	15,000	11,184	会報（No 123～No126）
観察会経費	5,000	0	
交通費	20,000	12,000	観察会車代
保険代	24,530	24,530	定額
HPプロバイダー料	4,730	4,730	含手数料
印刷費	30,000	19,494	会報、資料等印刷経費
登山道整備費	0	1,949	麻袋他
ボランティアリフト代	0	20,250	@1350×15
雑費	1,000	110	領収書
予備費	196,025	0	
合　計	301,285	95,647	

収　入	334,286　円
支　出	95,647　円
差引残高	238,639　円

収支差引残金　238,639円は次年に繰り越すものとする。

2023年11月26日
高山の原生林を守る会　　代表　佐藤　守

2024年事業計画

（1）自然観察会

2023 年はポストコロナで通常の観察会に戻りました。一方 2023 年は、会の高齢化の進行により登山を伴う観察会が難しくなりつつあることも実感しました。そこで観察会を以下のように変更します。

1）観察会を年6回から年4回とします。

2）観察地をなるべく標高差の少ない安全な場所を選びます。

3）車での移動も福島市から 30 ㎞以内を目安とします。

今後も参加者の多様な期待に対応するため、ご意見を観察会運営に反映していきたいと思います。

（2）西吾妻の登山道保全ボランテアについて

環境省の磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会(国立公園満喫プロジェクト：事業期間2021年～2025年)登山フィールド部会において2022年より西大巓～西吾妻小屋の区間が登山道保全のモデル事業に指定されました。

このモデル事業は官民一体となった登山道の維持管理運営体制の構築を目指しており、当会は積極的に参画することとします。2024年も引き続き以下の3つの取り組みを柱とし、作業ボランティアの一般公募を実施します（ホームページ掲載、YAMAP 活用、新聞掲載）。

月日	曜日	山域	作業内容	備　考（協力団体等）
6月11日	（火）	西大巓鞍部	誘導ロープ設置	一般公募、環境省
6月12日	（水）	（予備日）		
6月15日	（土）	西吾妻小屋周辺	誘導ロープ設置	一般公募、環境省、NF米沢
6月16日	（日）	（予備日）		
9月中下旬		西大巓～若女平分岐	近自然工法 登山道整備	環境省登山道保全モデル事業
10月19日	（土）	西大巓	誘導ロープ取下	一般公募、環境省、NF米沢
10月20日	（日）	（予備日）		

●ロープ設置、取り下げ作業でのゴンドラ代は全額ボランティア支援金から支出します。

ボランティア作業に係るロープウエイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします（通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします）
郵便振替：02170－0－24351「高山の原生林を守る会」へ

（3）山岳の放射線量調査

2011 年より継続している霊山、花塚山、虎捕山、野手上山の放射能汚染調査を実施してきましたが、10 年を経過したため、以下の通り見直します。

1）霊山、野手上山：毎年継続調査

2）花塚山：隔年調査

3）虎捕山：調査中止

（4） 会報の発行

会報の発行は、これまで通り年4回としますが、ページ数を4～6ページに縮小します。また、観察会レポート執筆は観察会参加者全員の中からお願いすることにします。

会報はホームページにも掲載してありますので、ホームページからの閲覧・印刷が可能な会員におかれましては、ご協力をお願いいたします。

2024年役員

代表（会報／HP）	佐藤　守	事務局長	奥田　博
会計	青柳静子、渡邊アヤ子	会計監査	丹治芳廣
幹事	佐藤守、奥田博、青柳静子、渡邊アヤ子、松井さき子、渡辺京子、五十嵐礼子		

吾妻・安達太良花紀行 95

佐藤　守

ノウゴウイチゴ（*Fragaria iinumae* バラ科オランダイチゴ属）

ブナ林から亜高山針葉樹林帯の湿り気のある草地に植生する多年草。多雪地帯に植生する種で、吾妻連峰では西吾妻山域に分布が限られる貴重種。流通しているイチゴと同様に根茎から匍匐茎（ランナー）を出して繁殖する。ランナー上にクラウンと呼ばれる葉と花序が一体となった器官を形成する。

葉は互生。輪生状に数枚の 3 小葉からなる複葉を伸ばす。葉の幅が広く丸みを帯び、薄く無毛で光沢がない。小葉の縁は波状の鋸歯があり、鋸歯の先端には赤い腺体がある。

花は頂性。輪生状に伸びた葉群の中心部から散形花序を着け、伸びた花柄の先に白い花を上向きに咲かせる。花弁は通常は 7 枚、時として 8 枚になる。花弁が 7 枚の花はツマトリソウと本種ぐらいであり、珍しい。栽培種のイチゴの花弁は 5 枚が普通である。花弁の内側に雄しべが円周に沿って着き、中心部は花床と呼ばれる器官が丸く盛り上る。その上に黄色い雌しべが多数着生する。雄しべの葯の色も黄色である。受粉すると個々の雌しべが結実し、種のような形の果実となる。花床は肥大して表面が赤色を呈し、可食部となる。

ノウゴウイチゴの果実の形は店先のイチゴそのものである。種が同じなので当たり前であるが・・・。初めてノウゴウイチゴの果実を見た時は、園芸種のような果実がそのまま自然界にもあることに感動した覚えがある。そしてイチゴの野生種が多雪地帯を好むのに対し、栽培されているイチゴは暖地を好むのは何故なのか。いまだにその答えが見つからないでいる。

オオウラジロノキ（*Malu tschonoskii*　バラ科リンゴ属）

吾妻・安達太良連峰のクヌギ・クリ林からブナ林に植生する落葉広葉樹。やや乾いた林縁や尾根などに生育する。日本固有種。同じリンゴ属のズミは高層湿原から山麓の湿性地周辺に植生するのとは対照的である。ウラジロノキはアズキナシ属でクヌギ・クリ林からコナラ林に植生し、里山に多い。

葉は互生。若葉は綿毛が多い。成葉では表面は無毛だが、裏面は白い綿毛が密生する。葉の形は楕円形から卵型で、リンゴの経済品種に近い。若葉は特に綿毛が目立ち、萌芽期は光に反射してキラキラと輝く。

新梢には綿毛がある。成長すると紫褐色になり、円い皮目ができる。落枝痕はクレーター状になり、大木になっても幹にその痕跡が残る。短枝が枝齢を重ねて刺状になる。なお、ウラジロノキは葉の形がアズキナシに似ており、平行脈が目立ち、縁は大型の重鋸歯がある。

花は頂腋性。散形花序であるが、リンゴの栽培種同様に中心花と側花を咲かせる。花弁の色は白、個体により周辺に赤味を帯びる。5 弁花で雌しべの柱頭も 5 本。雄しべは多数、葯の色は黄色である。

かつて、樹木の花を求めて高山山麓をこまめに歩き回った時期があった。イヌシデの壮木が目立つ森で白い綿毛で覆われた葉を着けた樹に出会った。調べたところウラジロノキであった。その後、見かけたウラジロノキはいずれも低木であった。探索域の標高をミズナラ林に上げて踏み跡などを辿っていると、丁度、ナシやリンゴの実生で良く見る尖った短枝をびっしり主幹に着けた樹を見つけた。それがオオウラジロノキであった。残念ながらそのエリアではオオウラジロノキの花を見ることは無かったが、思わぬところで沢山の花を着けた大木に出会った。花はまさにリンゴそのものであった。

2024年自然観察会計画

回数	月日	候 補 地	テ ー マ	集合時間	解散時間	担当者
192回	2/18(日) 集合場所	奥土湯・男沼自然林 小鳥の森駐車場	雪上観察・大カツラ	8:00	15:30	奥田 博 青柳静子
193回	4/21(日) 集合場所	大作山 小鳥の森/大作山記念広場駐車場	早春の植物観察	8:00	15:30	松井さき子 渡辺京子
194回	7/21(日) 集合場所	鳥子平から高山 四季の里正面入り口駐車場	針葉樹林植物観察	8:00	15:30	渡邊アヤ子 奥田 博
195回	11/24(日) 集合場所	峨嵯山・高松山 四季の里正面入り口駐車場	芋煮会と総会	8:00	16:00	五十嵐礼子 青柳静子 渡邊アヤ子

第 192 回自然観察会案内：奥土湯・男沼自然林観察会

日時：2024 年 2 月 18 日（日）8：00～15：30

集合場所　四季の里正面入り口（あづま橋側）　総会会場「もちずり学習センター」（予定）
集合時間　8:00　参加定員　20 名
内容　男沼を経由してコナラ林の冬芽やフィールドサインと杉植林地先にある大カツラを観察します。
準備するもの　昼食、登山靴・長靴等、スノーシュー等雪上歩行用具、ストック、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳
＊装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。
参加費用：保険代（500 円）、申し込み：2 月 16 日(金)まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします）。

2024 年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日（曜日）		回数	テーマ	観 察 地（集合時間・場所）
1/21	日	397	冬の生き物	廻戸周辺（10 時：湯夢プラザ）
2/11	日	398	雪の自然観察	雪国文化研究所（10 時）前日雪あかり
3/17	日	399	春を見つけよう	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）
4/28	日	400	カタクリの里歩き	無地内周辺（9 時：湯夢プラザ）春の企画展
5/12	日	401	夏の渡り鳥	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）
6/9	日	402	新緑の森	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）春の収穫祭
7/14	日	403	夏の花と虫	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）
8/18	日	404	水生生物と沢歩き	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）通信 200 号
9/15	日	405	木の実と秋の花	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）
10/13	日	406	落葉とキノコ	ツキザワの家周辺（9 時：湯夢プラザ）秋の企画展
11/3	日	407	冬の渡り鳥	錦秋湖周辺（9 時：湯夢プラザ）
12/1	日	408	初冬の森	西和賀町内（10 時：湯夢プラザ）

カタクリの会は自然観察会を目的とした会で、どなたでも参加できます。参加申込は各観察会の 1 ケ月前から電話で受け付けます。
天候などの状況によって観察地の変更もあります。参加費は 500 円
通常は午前中開催となり、12時解散となります
カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で年 6 回送付します。
（郵便振込：**カタクリの会 02350-5-38765**）
連絡先　代表　瀬川強　〒029-5512
和賀郡西和賀町川尻 41-72-15
電話　**0197(82)3601**
email:tsuyosi.segawa1954@gmail.com

振込による会費の納入は、郵便振替０２１７０－０－２４３５１「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報　第127号　2023年12月発行
編集・発行 ： 高山の原生林を守る会　HP：http://adumatakayama.justhpbs.jp/index.htm
（URL が変わりました）
代表連絡先 ： 佐藤 守　Phone　024－593－0188（夜間7時～9時）
郵便振替 ： 02170－0－24351　「高山の原生林を守る会」
入会方法 ： 年会費（1000円）を添えて上記まで
編　集 ：佐藤・奥田